

鈍感

- 室内を走り回る
- 高い所に登る
- イスに座れない

↓ 支援

- トランポリン・室内アスレチック
- にぎにぎボール・箱(段ボールハウス)
- 毛布・絵カード

↓ 結果

- 重さが制限できるようになった
- 感覚が治たされて落ち着いた

毎々感

- 床にゴロゴロ寝ころがる... 前庭感覚
- 水遊びを嫌がる(ぬれること) 触覚
- わん工遊び

↓ 支援

- 段階を踏んだ際に感覚に慣れるようにしていく
- 安全にゴロゴロできるスペース
- 直接はたたく道具を使用する

↓ 結果

- 負担が減り安心して過ごせる
- 段階を踏んだことで水遊びわん工ができるようになった

<ワーキングメモリ>

荷物の準備× → 絵カードを作る → 通人して始める
(2才児) できたシール

(5才児) 1日の流れを説明しても 1つ指しを伝える。情報量が多し理解が難しい → 簡潔に伝える

(5才児) いつおにぎをすれば良いか → タイムタイマーを使用し、視覚と聴覚で知らせる。理解が難しい

<社会モデル>

イスの高さ× → 牛乳パックで → 安定して座る
(2才児) 台を作った

コミュニケーションを取る事が苦手だが、(アノベント) 声かけをその子に対してイラストと言葉カードを併用して伝えるようにした。

食事時の姿勢× → 背もたれのない箱イスに → 背もたれのない箱イスにしたら、安定するようになった。(4才児)

感触あそびをするのはなぜ？
「触る事」自体が大切なのではなく、目的は触る経験を積み、触らなくても感触を想像できるようになることで「安心して過ごせるようになる」事です。
本質を見抜くのが大切です！

椅子に座れない時に、その子が座れるような椅子を提供する。当たり前を当たり前としない、
柔らかい思考が◎

敏感な子がやりたいと思った時にやる事ができる環境を用意しているのが◎

コミュニケーションは言葉だけではありません。合わせられる方が合わせるのが支援です。「話すこと」より「伝えようとする気持ち」を育てましょう。



子どもの行動には必ず理由があります。その理由にアプローチしていきましょう。
保護者の方に伝えたいときは、保護者の目の前で子どもへのアプローチを行い
子どもの行動が変わる様子を実際に見てもらうことが効果的です。

自立課題のご紹介

物で遊べない子には
ひとりで集中して遊べる環境に
興味に合ったものを用意してあげましょう。



コインスピンバ



小さめの製氷器
と固めのスライ



ボールペンの組み立



カードと洗濯ばさみを分
別して



錠付きの箱と
たくさんの鍵（ダミーの中に本物1
つ）



光るハンドスピナ

学んだ事を園に広める取り組み

実践をまとめたレポートの活用

ほんちょう保育園 市之瀬先生

【どのように？】

「褒めるに繋がる見て見ぬふり」を実践している様子の写真に解説を加えてレポートを作成し、会議で他クラス職員へ周知しました。保護者に対しても、園でどのような支援をしているのかを具体的に伝えました。

【やってみて、いかがでしたか？】

担任以外も関わり方を統一するために有効的でした。他職員に伝えるためにまとめることで、自身の保育の振り返りもできました。

今後も写真、動画を活用していこうと思います！

園内研修の実施

諏訪ひかり保育園 仲澤先生

【どのように？】

「ペアレントトレーニング」をテーマに、ゼミでの資料を基に園内研修用の資料を作成し伝えました。グループワークも行い、実践に活かせるような形で研修を行いました。

【やってみて、いかがでしたか？】

園内研修を行った事での成果はまだ分かりませんが、職員同士で話し合うことができ良い機会となりました。

全5回のゼミをとおして、支援するという事は、環境や意識をいかにその子に合うように整えられるかだという事に気付くことができました。参加された先生方がどのように実践に繋げているかも聞くことができ、毎回開催するのがとても楽しみでした。参加された先生方が発達支援において、園の中で中心となっただき、各園で発達支援が展開されることを願っております。一年間、ありがとうございました。

和光市保育センター 保育士 市田明絵